



純白の山を繋ぐスキーツアー

頸城・大毛無山～容雅山～北桑沢 山スキー

木下

【日時】2014年3月15～16日

【メンバー】L木下 長谷川（じ） 前田（た） 前田（奈）

妙高高原を過ぎ関山～新井の平野に入ると、標高は低くなるが純白の山が見えてくる、容雅山～不動山～大毛無山だ。ARAIスキー場ができたことによりツアールートとして脚光を浴びたが、スキー場の閉鎖とともにまた頸城・矢代山地の奥深いルートとなり、静かで充実した山スキーが楽しめる。



3/15 晴のち霰

大毛無山登山道入口に車をデポして、ARAIスキー場跡へ林道を歩き出す、踝位の新雪だ。立派なホテル（今は誰もいない・・・）の脇を抜けて、ゲレンデ跡を登ると先行パーティがありラッセルが助かる。小毛無山右手を巻き気味に登り、コルで先行パーティに追いついた。今日は良い天気のはず・・・が、俄かにガスが湧き出し霰まで降ってきた。頂上直下で1時間ほど

待ちをしたが回復しない。大毛無山の頂上に立ってみたが、視界は10m以下・・・前進をあきらめて小毛無とのコルで幕。夕方からは再びガスが切れ視界が広がった。高田平野の夜景が美しい。

3/16 晴のち雨

天気予報は昼頃から低気圧の通過を告げている、時間勝負とばかりに 5時半過ぎに歩き出す。山頂直下でご来光を迎え、うっすら桃色に染まる山頂に立った、風もなく穏やか、展望抜群・春霞に浮かぶ妙高山群がボリューム感を持って広がる。天気が急変するようであれば小エンドウ川へのエスケープを念頭において大毛無沢へ滑り込む。良いパウダーだ！快適に滑ると容雅山がどんどん近づいてくる・・・「行けるぜ～！」悪天⇒小エンドウ川へのエスケープは霧散、予定のルートへ GO・GO！ 標高を



落とすと次第に雪が悪くなり、大毛無沢の下部は「モナカ雪」、スキーマのトップがひっかかると思わず「前転」。

苦勞して、悪水沢出合へ。沢は水流が出ており、上流から回り込んで少し下流の右岸の沢に入る。水流の出ている小滝を巻いて二俣へ、ここから中間尾根を 1 ピッチ登り 1200 m 付近のプラトーに出ると、疎林の先に純白の容雅山が現れた。

ここまで来れば、視界が失われても下山は可能であろう。南風が吹きだしたが、まだ青空が覗いている。白い斜面にジグを刻んで東尾根にでて頂上へ向かう。容雅山は火打東面・澄川～黒菱～濁俣の迫力ある展望



台だ、大毛無山ははるか遠くなりスキーマの威力を感じる瞬間だ。

さあ、滑降！思わず歓声が上がります。雪質良く、パウダーに思い思いのシュプールを刻んだ。しかし 1100 m 位からは重く湿った新雪となり、重雪をこなすと太ももが悲鳴をあげている。800 m 付近から沢は所々水流の穴が目立つようになったので、右岸台地に上がりブナ林の中を進み、尾根末端から澄川へ下りた。

徒渉を心配したが、まだ十分の積雪で問題なく対岸に渡る。50 m ほど登り返し導水管尾根に出ると林道から登ってきた二人パーティと出会う。彼らのトレースを



拾い、日曹第 3 発電所へ滑り込んだ。吊橋を渡り、林道へ登り返す。すでに小雨模様の天気となり、霞んだ彼方に白くすっきりと立った容雅山が見送ってくれた。林道は雪上車のトレールがあり、「ラッ



キー！」重いラッセルから解放される。ヒールフリーにして滑走、最後は田んぼの中を抜け、岡沢本田の集落へ。

ちょうど通りかかったタクシーに乗ることができ、車を回収。湯楽里館の温泉を出てくると激しい雷雨、天気の間をすり抜けた 2日間であった。

●登滑降高度：約 1800m ●距離：21km

【行程】 3/15 大毛無山登山道入口（8：00） - スキー場ホテル（9：00） - 大毛無山頂上直下（13：00-14：00） - 大毛無山（14：30-45） - 小毛無コルC1（15：00）

3/16 C1（5：40） - 大毛無山（6：10-20） - 悪水沢（7：10） - 二俣（7：30） - 北桑平 1260m（9：10） - 容雅山（9：55-10：10） - 北桑沢滑降 - 澄川（11：15） - 日曹第3発電所（12：20） - 林道（12：40） - 岡沢本田（14：00）

【地図】 関山 湯川内



大毛無山山頂にて